

いちばんのストレス解消法は
大きな風呂にひとりで入ること。
嫌なことも吹っ飛びますよ（笑）。

KAZUKI OHMORI

大森一樹

1952年、大阪府生まれ。京都府立医科大学卒業。83年、医師国家試験合格。77年、「オレンジロード急行」でメジャー映画監督デビュー。作品に「すかんびんウォーク」などの吉川晃司のシリーズ、「恋する女たち」などの斉藤由貴のシリーズがある。「世界のどこにでもある、場所」が本年公開された。最新の監督作「津軽百年食堂」は4月2日より全国順次公開。05年より大阪芸術大学芸術学科映像学科教授を務めている。

撮影：増田慶



僕が医師免許をもっているのは公立の大学で、実績にも関わらず、大学から取ってほしいということだったから。もう、「オレンジロード急行」を撮っていて、映画の仕事に進んでいましたからね。とは言え、そのおかげか医学関係の映画はいっぱい撮りましたねえ。「ヒポクラテスたち」「法医学教室の午後」「僕が病気になる理由（わけ）」……。今年公開した「世界のどこにでもある、場所」では、うつ病というテーマにも挑戦しました。新しい医療関係の題材に取り組む時は、いろいろトリサーチを重ねますね。

こういうものをやるなら、医師免許をもっている大森一樹に、ということとは当時あったと思う。自分としても人よりは知識があったと思うし、自分なりの興味はありましたよね。そこには、人の生と死があるじゃないですか。ドラマがあるということなんです。ハリウッドでは、ひとつのジャンルとしてすでに確立していたんですが、日本では、僕が先駆けということなんです。

ここ最近では日本でも、映画やドラマでいろいろやるようになってきましたよね。1クルルのドラマが何本も医療関係だったり。浸透

健康に気を使いすぎず、自然の流れに自分を合わせて歳をとっていったら素敵だと思います。

するにつれて、僕へのオファーは減ってきた感じがあるけど(笑)。

そういう自分が、健康について気をつけていることという……

実はない(笑)。まあ、強いてあげれば、風呂に入ることですかね。

大きなお風呂が好きなんですよ。ジムについている風呂とか、スーパ―銭湯とか、いま、24時間やっているところがありますから、思い立ったら行く。

午後の1時とか2時とかそんな時間が多いような気がします。なぜなら、誰もいないから(笑)。いいですよ、人のいない大きな風呂をひとりじめできる感覚は。最近家の風呂にあまり入らなくなりました(笑)。

いまは、大学の仕事をしていた、映画監督としてやってきた僕が、人事などいろいろと決めたきやならなくて、人間関係のストレスも感じやすくなってるんです。そういうストレスをふっとばすには風呂がいちばんかな。

入り方として、あまり長く浸かりすぎず、出たり入ったりを繰り返します。それで1時間くらい、そこにいる感じかな。このやり方が自分にあっているし、健康にいいと感じています。

歳になったし、いろいろガタは



来てると思うんですけど、大病したり、特に悪いところはないですね。

運動もジムのプールで泳ぐことをたまにするぐらいなんですけど。

食にも気をつけていないし。そのわりに健康だとしたら、あまり食べたりしないのがいいのかもしれないね。お腹が減ってなかったら、食べないし、そもそもそんなに量をとらないんですよ。脳がほしがったとしても、身体がほしがらだけ

か食べないというような感じかな。何か歳をとるに従い、それに合わせて無理をせず、自然にやってきた感じはありますね。

映画をずっと撮ってきて、でも、映画って掴めないな、と思っただけです。わからないけど、そのときの今に自分を合わせてやってきた気がします。生き方もそういうことだったのかもしれないですね。今度公開される「津軽百年食堂」は桜を扱った映画なんです。

花見とかもストレスを解消するのにはいいですよ。僕は近場に行かないけど、酒を飲んでちょっと酔いで、楽しいですよ。

酒も好き(笑)。ストレス解消にはいいかもしれない。いまでもよく飲みますよ。でも、結果として週1〜2日は抜いています。これも歳をとって自然にそうになっていったのかな。これからも健康に気を使わず、自然の流れに合わせて、歳をとっていききたいですね。